- 3) 連続20回以上治療を行っても無効の場合は、それ以上治療を続けても意味がない。
- 4) 本治療法の適応症としては、声帯結節、浮腫型のカタル性喉頭炎、ポリープ切除後の難治症例が挙げられる。
- 5) プレドニン喉注の効果には男女差が認められ、女性の方により有効である。また40才以上の男性では特に治療効果が悪い。

稿を終るに臨み御指導、御校閲を賜った後藤光治教授に深謝する。

なお本論文の要旨は日本気管食道科学会第14回総会で報告した。

参 考 文 献

1) 広戸幾一郎, 他: 耳鼻臨床 52: 814, 1959	社.
2) 渡辺 篤, 他: 耳鼻咽喉科 30: 434, 1958	9) Baker, B. L., Ingle, D. J., 田多井吉之助訳:
3) 太田行次: 耳鼻臨床 55: 17, 1963	ACTH と コーチソンの生理的治療的效果,
4) 梶川欽一郎: 気食会報 13: 242, 1963	1953
5) 相原静江, 他: 気食会報 13: 117, 1963	10) Ungar, G. et al.: Intern. Arch. Allergy 4: 258,
6) 広戸幾一郎, 他: 耳鼻咽喉科 34: 513, 1963	1953
7) 前田享昱, 他: 耳鼻咽喉科 34: 613, 1963	11) Luchsinger, R. U. Arnold, G. E.: Lehrb. d.
8) 副腎皮質ホルモン療法の実際 日本メルク万有	Stimm u. Sprachheilk, 1959

喉頭炎に対する水溶性プレドニンの使用経験

平 野 実・矢 武 良 規*

Clinical Observations on the Treatment with "Water-Soluble Predonine" for Laryngitis

M. Hirano & Y. Yatake

Department of Otorhinolaryngology, Faculty of Medicine, Kurume University

Water-soluble predonine (Predonisolone Sodium Hemisuccinate) was applied into the laryngeal cavity of the patients with some types of laryngitis, i. e. acute or chronic catarrhalic laryngitis and vocal cord nodule. Fifteen patients treated and in all of them satisfactory results were obtained. Side effects were observed in none of them.

緒 言

耳鼻咽喉科領域に於ける副腎皮質ホルモンの効果については、1949年 Bordley 等がアレルギー性鼻炎に使用して有効であつた事を報告して以来数多くの臨床報告が行われ、その卓効性が伝えられている。我々も先に、喉頭の慢性炎症性疾患に対して副腎皮質ホルモンを局所的に使用し、その有効なる事を報告しているが、今回水溶性プレドニンの供与を受けたので、之を同種疾患に用いて比較検討してみた。その成績を報告して諸賢の御参考に供する事とする。

* 久留米大学医学部耳鼻咽喉科学教室 (主任 広戸幾一郎教授)

治 療 方 法

使用した製剤は Prednisolone Sodium Hemisuccinate すなわち水溶性プレドニンである。先ずプロタルゴール滴下1% 重曹食塩水の吸入を行わしめた後、5mg (0.5cc)を一回量として喉頭内に注入した。また症状の程度に応じて種々の程度の沈黙療法を併せて行つた。

治療対象は喉頭鏡所見により下記の3群に区別される。

- (1) 急性カタル性喉頭炎
- (2) 慢性カタル性喉頭炎
- (3) 謠人結節または声帯ポリープ

治 療 成 績

治療成績は上述の区分に従つて、各群毎に述べる。

(1) 急性カタル性喉頭炎

第1表に示す如く全例が軽快ないし治癒している。治癒が2例、軽快が2例である。軽快した症例は、他覚的には病的所見は消失したが自覚的な異常感を

訴えるもの、および他覚的所見はなお若干残つているが自覚的には音声改善著しく、患者が満足したためにその後の治療を中止したものの2例である。

(2) 慢性カタル性喉頭炎

第2表に示すごとく、軽快4例、治癒2例である。

第 1 表 急性カタル性喉頭炎

症例	年齢	性	職業	主 訴	声帯の主要所見	副皮ホルモン 使用 前 治 療	副皮ホルモン 使 用 回 数	転 帰
1	49	♀	主婦	嚥 喉 頭 痛	充血	プロタルゴール入	10 回	治 癒
2	35	♂	農業	咽 喉 痛 感	軽 度 充 血	プロタルゴール入	5 回	軽 快
3	31	♀	教員	咽 喉 痛	充 血	／	4 回	軽 快
4	20	♀	会社員	嚥 喉 痛 声	浮 腫	／	2 回	治 癒

第 2 表 慢性カタル性喉頭炎

症例	年齢	性	職業	主 訴	声帯の主要所見	副皮ホルモン 使用 前 治 療	副皮ホルモン 使 用 回 数	転 帰
1	38	♂	人 夫	嚥 喉 頭 痛	軽 度 浮 腫	／	5 回	軽 快
2	29	♂	会社員	嚥 喉 痛 感	充 血	／	5 回	軽 快
3	34	♀	教員	嚥 喉 痛 感	浮 腫 充 血	プロタルゴール入	8 回	軽 快
4	42	♂	農業	異 物 感 痛	充 血	サルファ剤	3 回	軽 快
5	44	♀	主婦	嚥 咽 頭 乾 燥 感	充 血	プロタルゴール入	12 回	治 癒
6	55	♂	会社員	異 常 感	浮 腫 充 血	／	4 回	治 癒

第 3 表 声帯結節またはポリープ

症例	年齢	性	職業	主 訴	声帯の主要所見	副皮ホルモン 使用 前 治 療	副皮ホルモン 使 用 回 数	転 帰
1	41	♂	会社員	軽 度 嚥 声	左 側 ポリープ 血腫	ポリープ剔除	5 回	治 癒
2	31	♂	会社員	嚥 喉 頭 痛	両 側 結 節 腫	結 節 剔 除	7 回	軽 快
3	64	♀	主婦	失 声	左 側 ポリープ 腫	アレドニン8回 ポリープ剔除	16 回	軽 快
4	55	♂	会社員	嚥 喉 痛 声	右 側 ポリープ 腫	ポリープ剔除	3 回	治 癒
5	20	♀	バ イ ス ガイ ド	嚥 喉 痛 声	右 浮 側 結 節 腫	／	11 回	治 癒

軽快した症例を検討すると、第1, 第2, 第3例は他覚的には声帯の軽度の浮腫または充血を残すのみの状態にまで軽快したが、以後一進一退して治癒に至らないものであり、第4例は軽快に満足して治療を中断したものである。

(3) 謠人結節または声帯ポリープ

第3表に示す如くである。本群では第5例を除いて、他の症例は初めに結節またはポリープを切除し、術後の反応性炎症を抑制し、かつ再発を防止する目的

で水溶性プレドニンを局所に使用した。第5例は強い嚔声を訴えていた患者であつたが、手術操作を加える事なく、プレドニン注入のみを行い、軽度の癒痕所見を残すのみで治癒したものである。又第3症例は粟粒大の声帯ポリープを認めたが、プレドニン治療のみでは軽快しない為に切除術を併用したものである。本群の成績は軽快2例、治癒3例であるが、6カ月後の現在迄全例共に再発の兆候を示していない。

総括ならびに考按

以上の各群の成績を要約すれば第4表の如くなる。副腎皮質ホルモンは抗炎症作用、肉芽増殖の抑制、アレルギー反応の抑制、毛細血管透過性亢進の抑制等の作用機転を有する。急性慢性を問わずカタル性喉頭炎に対しては、水溶性プレドニンの注入のみによつて全症例が軽快もしくは治癒に赴く訳で極めて有効である事が分る。我々の使用例数は未だ少いが、急性カタル性喉頭炎では軽快例と治癒例が同じ割合に認められる。慢性カタル性喉頭炎では他覚的には病的所見が消失しても自覚的なお軽度の異常感を訴えたり、また他覚的所見はなお軽度に残っているにも拘らず自覚的には症状が消失した例が多い。即ち完全治癒例と云うべきものは少く軽快例が多い訳であるが、これは当然の事であろう。副腎皮質ホルモンは肉芽組織の形成に対しては抑制的に働くが、既に形成されている肉芽組織の消滅に向つては短期間では作用し難く、毛細血管増生、線維芽細胞増殖等の面で影響を及ぼす事が少いからである。慢性炎症で既に肉芽組織の増殖が著明な場合には病変の進行は阻止出来てもこれを治癒する事は難しい訳である。慢性カタル性喉頭炎では長期に亘つて使用する必要があるが、それよりは出来るだけ早期に使用する事に留意すべきであろう。喉頭ポリープおよび声帯結節に対しても同様の事が云える訳で、治癒を促進する為には切除手術を施行してしかる後に、副腎皮質ホルモンを使用するのが重要かと思われる。第3表の第3例はその好例で最初プレドニンの喉頭内注

第4表 治療成績

疾患 転帰	急性カタル性 喉頭炎	慢性カタル性 喉頭炎	喉頭 ポリープ	計
不変	0	0	0	0
軽快	2	4	2	8
治癒	2	2	3	7
計	4	6	5	15

第5表

疾患 転帰	慢性カタル性 喉頭炎	声帯結節及び 声帯ポリープ	計
不変	0 (3)	0 (2)	0 (5)
軽快	4 (7)	2 (2)	6 (9)
治癒	2 (3)	3 (5)	5 (8)
計	6 (13)	5 (9)	11 (22)

入を試みたがポリープは縮小せず、止むなく手術を行つて、しかる後に水溶性プレドニンを使用して軽快した例である。その他の喉頭ポリープの場合も同様で手術後にプレドニンを使用する事により局所の瀰漫性の発赤腫脹、および浮腫は数日内に消失している。結節性声帯炎についても同様の事が云えるが、2例の内1例はかなり大きな結節であつたのにも拘らず治療期間は若干長期に亘つたがプレドニン治療により完全に消失した事は注目すべきである。広戸等の前回の報告第5表でも、ポリープに比し声帯結節の治癒率が良く、同じく喉頭の炎症性新生物であっても、ポリープと結節とでは、若干治療法適用の差がある訳で、今後更に検討すべきものと思われる。今回の慢性疾患のみの成績を前回の懸濁プレドニンの成績と比較すると第5表の如くである。即ち両者には著しい成績の差は認められない。唯、前回の患者が都会地のものであつたのに比し、今回は農村を主とするものであるもので、薬剤の適用日数が前回は1人平均18日であつたものが、今回は平均7日であるから、治療日数の面からみると水溶性プレドニン使用の方が懸濁用プレドニンの場合に比し、早期に所望の成績が得られると云う事が出来ようし、また前回並みの治療の継続が可能であるならば、さらに全治例は増加するものと考える事も出来よう。さて、原則的に云つて副腎皮質ホルモンの全身的適用は必ず何らかの副作用を惹起するものであるが、我々の用いている局所的注入療法は長期に亘つても副作用

は皆無である。感染に対する抵抗力の低下も全く考慮の必要がなく、本療法施行中に抗生物質療法の併用等特に行う必要もない。この事は一面局所に適用した副腎皮質ホルモンが体内に吸収される事が少い事を意味している訳であるが、局所粘膜そのものに於ける濃度は治療経過よりみて必要程度に達している事は想像に

難くない。従つてまた懸濁用プレドニンよりは水溶性プレドニンの方が局所粘膜よりの被吸収性に於いて優れている訳であるので、前述の論及と相俟つて喉頭注入療法剤としては、従来の懸濁用に比して、水溶性プレドニンの方が推賞出来るものと考えている。

結 語

喉頭の炎症性疾患に対して副腎皮質ホルモン(水溶性プレドニン)の喉頭内注入療法を施行した。急性および慢性カタル性喉頭炎、結節性声帯炎(謠人結節)に対する効果は顕著である。喉頭ポリープに対しては先ず手術を施行し、その後を使用して術後の反応性炎症と再発の防止に役立てるのが合理的である。従来の懸濁用プレドニンと比較すると、水溶性の方が効果の発現が早い。

稿を終るに臨み、恩師広戸幾一郎教授に御指導、御校閲を賜つた事に対して深甚な謝意を捧げます。
尚本論文の要旨は日本気管食道科学会、第14回学術講演会に於て口演した。

参 考 文 献

1) 広戸幾一郎・他：耳鼻臨床 52：8, 814. 1959	7) 白岩俊雄：耳鼻展望 4：2, 9. 1961
2) 鈴木安恒・他：日耳鼻 63：8, 1972. 1959	8) 寺山吉彦他：日耳鼻 64：7, 1282. 1961
3) 久保隆一・他：日耳鼻 63：11, 2414. 1960	9) 向野興雄他：耳と臨 7：3, 177. 1961
4) 森末久雄：日気食会報 11：4, 292. 1960	10) 相原静江・他：日気食会報 13：2, 117. 1962
5) 久保隆一：日気食会報 11：4, 350. 1960	11) 田村浩通・他：広島医学 15：1, 46. 1962
6) 長岡梧郎他：日耳鼻 65：5, 689. 1961	